

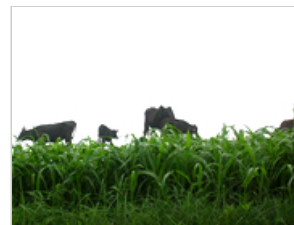
生物生産システム学

HOME 学部・大学院 農学部 学部紹介 生物生産システム学専門教育コース

[専門教育コースの教育理念と教育目的](#) [専門教育コースのディプロマ・ポリシー](#) [専門教育コースのアドミッション・ポリシー](#)
[専門教育コースのカリキュラム・ポリシー](#)

専門教育コースの教育理念と教育目的

世界の農業は急激な人口増加によって食料生産の重要性が増すなかで、農地の荒廃や生産者の減少など、多様で解決困難な多くの問題を抱えています。本コースは生物の持つ多面的機能を活かし、生産と環境の保全を両立させ、持続的農業生産を可能にする新たな技術の開発とそのシステム化を目指した教育研究を通じて世界的視野で社会に貢献できる人材を養成することを理念としています。



卒業後の進路

本コースの卒業生の進路としては、研究者を目指して大学院に進学、県内外の公務員、中学・高校教員の他、企業関係では専門教育コースで学んだ教育の成果を反映して、JA、園芸、種苗、製薬、製紙、環境アセスメント、食品関係、自営業(農業)などに進む卒業生が多く、また銀行などの金融業などにも就職するなど、その進路は多岐にわたっています。

取得可能な学位

学士(農学)

取得可能な資格

中学校教諭一種免許状(理科)
高等学校教諭一種免許状(理科, 農業)
学芸員資格
愛媛大学食育士

[ページの先頭へ戻る](#)

専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、卒業時に必ず身につける能力)

1. 知識・理解
生物の有する多面的機能を活かした生産性の高い持続的農業技術に関する専門知識を理解、修得している。
2. 思考・判断
循環型社会構築の観点から地域社会や国際社会における食料、資源、環境に関連する諸課題の原因について、論理的に説明し、解決策を見出すことができる。
3. 関心・意欲、態度
講義のほか実験と実習による、理論と実践を一体化した実学的教育を通じて、農業生産現場の諸問題解決に積極的に取り組み、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。
4. 技能・表現
自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を習得している。



[ページの先頭へ戻る](#)

専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針, 入学時に問われる能力)

農学部は、地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関する様々な問題を解決し、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる人材を養成することを教育理念としています。この教育理念に基づき、また、農学が広範な総合科学であることを考え、食料・資源・環境に関する様々な問題の解決に熱意をもち、多様な能力・適性をもった学生を受け入れることを、アドミッション・ポリシーとしています。



(知識・理解)

1. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの基礎的な知識を有している。
2. 次のいずれかに該当する。
 - A. 高等学校で履修した主要教科・科目について、教科書レベルの課題を解くことができる。
 - B. 農業・生物資源または工業、商業などに関する専門的な知識・技術を有している。
 - C. 高等学校で選択履修した教科・科目について、実践的・体験的学習から得られた知識・知見・技術を有している。

(思考・判断)

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

(関心・意欲、態度)

地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関する様々な問題に関心を持ち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲を持っている。

(技能・表現)

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。

[ページの先頭へ戻る](#)

専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針, カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

生物生産専門教育コースでは、生物の有する多面的機能を開発・利用して、生産性の高い持続的農業を構築するために、農業資源生物に関連した知識を、オーソドックスな生物学の他に分子生物学も含めて学びます。講義のほか、農場実習を課して理論と実践を一体化した実学的教育を行い、生物生産についての専門的知識と技術を学びます。



カリキュラム・マップ

生物生産システム学専門教育コース・カリキュラムマップ (PDFファイル 46KB)

[前のページに戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)